

5：学校環境衛生①（小学校）

取組内容	テーマ	「来校者目的別出入口」の設営について
	取組に至った経緯	<p>以前から「来校者の出入りの対応」を検討。利便性や慣習で、課せずにいた。流行が止まらず、重ねて緊急事態宣言等が発令。繰り返し、濃厚接触者や体調不良者の登校自粛を通知したが、濃厚接触者である保護者が来校したことが判明。即座にしかるべき対応について、保健所の指示を受けた案件があった。</p> <p>懸念すべき①2次感染を防ぐこと、②感染者の移動ルートの把握、③新型コロナ感染者の入校の可能性を極力避ける、という目的で、ゾーニングの考えを元に児童以外の来校者を来校目的別に出入口を定め、通知し、実行中。今後も状況に合わせて、この方策を続けていく予定。</p>
	実施時期	年間
成果と課題	成果	①来校者の把握がしやすい。②来校保護者・業者などの移動距離を減らすことで、感染可能性が減る。③動線を設定することで、登校後の発熱者や登校後に濃厚接触者と判明した児童が他児童と接触する可能性を少なく出来る。④この取組が、新たな予防策の派生に繋がり、形に出来ている。（検温問診室・校門引き取り・緊急時対応備蓄と表示・消毒済み表示活用等）
	課題等	学校では、一斉に保護者が来校する行事（児童の引き取り訓練等）、間隔を空けるよう声かけや係を多く配置しても、一気に人が流れ込む時があり得る。換気や検温・消毒も施した。これ以上の手立てがあるなら知りたい。

5：学校環境衛生②（小学校）

取組内容	テーマ	緊急時対応備蓄と感染予防表示
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染症が急速に拡大したため、令和2年度当初、予防対策物品が品薄になり、十分に備えることが出来ず焦りを感じた。その事を教訓とするとともに、必要な物品を備蓄・所在の明確化・常時使えるように整備・職員の周知・使用のルール設定を行った。また、日常使用品は、それらと別に必要箇所に配置した。</p>
	実施時期	年間
成果と課題	成果	<p>急遽、校内の消毒等の必要性が起きた場合も、判明から5分以内に行動化が図れた。いざという時に「物品が無くて、対応が出来ない」という心配は皆無であった。予算を預かる事務職員との連携（情報交換・必要度確認）の賜物と考える。</p>
	課題等	<p>予算削減もあり、備蓄品が潤沢な状況とは言えない。また、今後更なる感染拡大や長期化が見込まれた場合、備蓄物品の不足・価格高騰による入手困難・需要数の跳ね上がりによる品薄状況（発生当初に経験済み）を再度繰り返すことへの懸念を感じる。そして何より、感染拡大や長期化により、物品不足に至った場合、児童の健康・安全を守り切れるかと危惧する。</p>

5：学校環境衛生③（小学校）

取組内容	テーマ	上履きのまま履けるトイレスリッパ		
	取組に至った経緯	<p>保護者から「トイレに行った上履きで歩いている床を雑巾がけして、感染は大丈夫なのか」との指摘を受け、教職員間で様々な意見交換を行った。</p> <p>①ビニール手袋をして雑巾がけをさせる→サイズが合っていないとケガにつながる危険があるため却下。</p> <p>②モップを使う→柄が長いと後ろの子にぶつかったりする危険がある、保管場所がない、人数に限度がある、などの理由により却下。</p> <p>③職員で掃除する→清掃活動も大切な教育活動の一つのため却下。</p> <p>そして、ひらめいたのが「上履きでトイレに行かない」だった。上履きをぬいで履き替えるのは、上履きを間違えて履いてしまったり、もたついて間に合わなかったりするデメリットがあるため、上履きのまま履けるスリッパを使用することにした。</p>		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	ベランダ用スリッパやいろいろなスリッパを試したが、やはり専用のスリッパが使いやすかった。このスリッパのおかげで、今まで通り、雑巾がけができています。		
	課題等	1足あたりが高額。		

【補足資料】 5：学校環境衛生③（小学校）

「上履きのまま履けるトイレスリッパ」



小学校は、靴のサイズの幅が広いので、大中小と大きさの違うものを用意した。

5：学校環境衛生④（中学校）

取組内容	テーマ	校内消毒体制について	
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」の中で消毒作業の実施について示された。本校でも具体的な実施内容を検討してきた。はじめは教職員が放課後の消毒作業を行ってきたが、「学校の新しい生活様式」が改訂される度に保健部で情報共有、検討会議を行い消毒作業の内容変更を随時行ってきた。</p> <p>現在は改訂内容に従い、保健委員の生徒が中心になって清掃時間に消毒作業を行っている。また場所も限定し、スムーズに作業に取り組んでいる。</p>	
	実施時期	年間	
成果と課題	成果	改訂ごとに消毒作業を変えていくことで、作業の負担軽減につながった。生徒たちも消毒作業に加わることで、生徒たちの感染症対策への気持ちが高まった。	
	課題等	<p>コロナ禍の長期化に伴い、消毒作業に差が出ている。</p> <p>清掃時間に行うため、実際の清掃場所の人数が減っており、負担をかけている。</p>	

5：学校環境衛生⑤（中学校）

取組内容	テーマ	教室の換気対策		
	取組に至った経緯	<p>感染症対策として、密閉を避けるために、教室の換気対策が重要である。本校では、学校薬剤師の指導のもと、教室にサーキュレータを2台と二酸化炭素濃度測定器を設置、換気窓を対面2方向設定し、常時換気を保っている。カーテンを閉めると換気が遮られてしまうため、ベランダには、よしずを設置した。</p> <p>また、感染対策前から、エアコン効率を上げるために扇風機を教室前側に2台と教室後ろ側に2台設置している。</p>		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	換気窓として、教室のベランダ側窓・廊下側上窓・廊下窓の設定のパターンを作り、二酸化炭素濃度を測定し検討した結果、エアコン効率も考慮し、二酸化炭素濃度1,500ppm以下の環境を保つことができている。		
	課題等	エアコン使用時は、生徒によって寒暖の感じ方が違うため、配慮が必要になる。冬期は、ウィンドブレーカーの着用など防寒対策が必要である。		

「教室の換気対策」

- 1 教室にサーキュレーター 2 台、二酸化炭素測定器を設置、廊下側上窓換気窓の固定、ベランダ側換気窓の設定し、二酸化炭素濃度 1500PPM 以下 (基準値内) を保っている。

教室の換気対策について

新型コロナウイルス感染症予防対策として、以下の取組をお願いします。
 なお、各階段や廊下、トイレの窓については、左右10cmから20cm程度の開放をお願いします。
 また、廊下側のドアについては、最も前方と最も後方のドアを20cm程度開けてください。

1 教室の場合

①ベランダ側の窓

※ a (教室最後方の窓) または j (ベランダへの出入口) を 20cm 程度開ける。
 ※ b から i は、10cm 程度開けることが望ましい。

②廊下側の天窓

※ a (教室最後方の天窓) または h (教室最前方の天窓) を全開する。
 ※ a または h に向けてサーキュレーター風の風が抜けるように設置・稼働する。
 ※ b から h は、10cm 程度開ける。

※ CO₂ 濃度を測定した結果から～
 学校環境衛生検査基準：CO₂ 濃度 1500 PPM 以下であることが望ましい

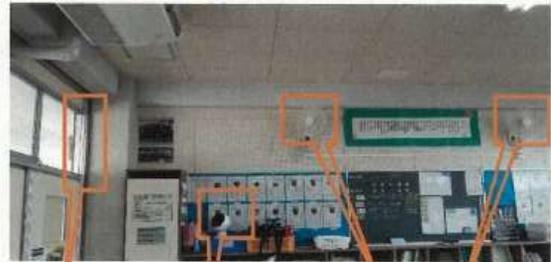
ケース1：カーテン全開。窓ベランダ側4カ所両側10cm 開。廊下側4カ所両側10cm 開。ドア前後全開。 **1246 PPM**

ケース2：カーテン全開。窓ベランダ側4カ所両側10cm 開。廊下側4カ所両側10cm 開。ドア前全開。ドア後全開。 **1610 PPM**

ケース3：カーテン全開。窓ベランダ側4カ所全開。廊下側4カ所両側10cm 開。ドア前全開。ドア後全開。 **2221 PPM**

ケース4：カーテン全開。窓ベランダ側2カ所両側10cm 開と2カ所全開。廊下側4カ所両側10cm 開。ドア前全開。ドア後全開。 **1572 PPM**

学校薬剤師の先生より
 ・対面で2方向換気し、空気の流れをつくるのがポイントです。
 ・サーキュレーターを教室の前後に配置して、教室内の空気を廊下に押し出し、空気を入れ換えることでの換気もおこなってください。
 休み時間は、短時間、窓を全開にするなど、エアコン効率も考えた換気をするようにしましょう。



換気窓 サークュレーター 扇風機
 【教室：後側】



廊下側上窓の換気位置を固定



換気窓
 ベランダによしずを設置
 【教室：前側】

担任用事務机
 アクリル板を設置
 【教室：前側】



サーキュレーター設置
 二酸化炭素濃度測定器設置
 【教室：前側】

5：学校環境衛生⑥（中学校）

取組内容	テーマ	新しい生活様式に対応した学校環境衛生の工夫		
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染症対策として学校でも新しい生活様式を取り入れることになった。換気の徹底や感染予防の観点でのごみの分別などこれまでとは違う新しい生活様式を教職員・生徒に意識してもらうため、経費を抑えて対策グッズを作成し令和2年度当初の休校中に設置した。</p> <p>新学期が始まり、カーテンにより換気が妨げられている様子がみられたため、生徒保健委員会で「換気用クリップ」を作成し、設置した。生徒保健委員会の昇降口での呼びかけを効果的に行うために、表示を作成した。</p>		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	冷暖房時にも最小限の窓明けをして換気することが定着した。環境衛生検査の二酸化炭素濃度も基準値以下を保つことができている。		
	課題等	新しい生活様式が日常生活に定着した反面、時間の経過とともに表示を見慣れてしまい、予防行動に対する意識の低下が起きている。		

新しい生活様式に対応した学校環境衛生の工夫

1. 換気



教卓に「授業開始時 換気確認 窓は開いていますか？」を表示した。授業時間のはじめに教員が忘れずに確認する。

- 窓枠に表示。最低あけておく幅を表示した。
- 廊下側にも同様に表示。



「空気の通り道」を表示。

- 換気クリップでカーテンを留め空気の通り道を確保する。



【保健管理】

【補足資料】 5：学校環境衛生⑥（中学校）

2. ふたつきゴミ箱（段ボール箱を活用）



3. 生徒保健委員会による昇降口での呼びかけ活動

手を洗ってから教室に入りましょう



使用後



毎朝「手を洗ってから教室に入りましょう」「健康観察しましたか」と登校してきた人に呼びかけ活動を行っている。表示は保健委員会で作成。表示使用後は昇降口に掲示しておく。

5 : 学校環境衛生⑦（特別支援学校）

取組内容	テーマ	新型コロナウイルス感染防止対策活動		
	取組に至った経緯	本校は、重度障害児が多数在籍している。感染症から、重篤になってしまう場合もあり、感染症対策には特に重点を置いている。 未曾有のコロナウイルスから子供を守るために、日々実践している。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	今のところ児童生徒の新型コロナウイルスの発生はみられていないので成果はあったと考えられる。		
	課題等	全国的にコロナの新規感染者が少なくなった時にどこまで対策を緩めてよいのか明確にしにくい。		



新型コロナウイルス感染防止対策活動

～実践報告～ 感染拡大防止の対応

【ゾーニング等】

保健室

- ・ 入口と出口を設定 (一方通行)
- ・ 入室制限 : 児童生徒 4 名 (教員 4 名) まで制限し、間隔をあける。(写真 1)



(写真 1)

職員室

- ・ 間仕切り (パーテーション) の設置 (写真 2)
- ・ 職員会議は各教室で Zoom を用いて実施



(写真 2)

教室

- ・ 全学級に二酸化炭素濃度測定器を設置

【来校者対応】

- ・ 玄関前に体温計測器を設置 (写真 3)



(写真 3)

【清掃・消毒に関すること】

- 教員による環境消毒 (児童生徒下校後)
 - ・ 場 所 : 手すり、スイッチ、ドアノブ等
児童生徒が触れた箇所、おもちゃ、教材等の児童生徒が使用したもの
 - ・ 消毒液 : 次亜塩素酸ナトリウム希釈液
またはアルコール消毒
- 清掃業者による環境消毒 (児童生徒登校前)
 - ・ 場 所 : 手すり、スイッチ、ドアノブ等

【その他】

マスクの徹底

- ・ 教員、保護者、業者等について、マスクの着用を徹底
- ・ 摂食指導時、教員はマスクの取り換え、エプロン、三角巾、フェイスシールドの着用

服装

- ・ 教職員は通勤着と指導着を分ける

定期健康診断の実施方法

- ・ 間隔を開けて列を作り、密にならないように工夫 (足元に並ぶ目印を設置)
- ・ 入口、出口の一方通行の徹底